

領域	対象	評価項目	成果と課題	評価	改善策
教育活動	教科指導	①学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲、授業態度の個人差が大きく、学級によっては、授業に支障を来している時間もある。 昨年度導入したチューター制が高度化されず、チュートリアル(個別指導)も不十分に終わっている。 アンケートより、家庭学習を全くしない生徒や定期考査を意識しない生徒の割合が高く、自主的に学習を行う生徒は半数程度である。資格試験への取り組み等を起点に自律的学習者となるような指導にあたる必要がある。 家庭学習は依然として課題であり、PTA総会でも学力に関する情報提供を行い、家庭学習の協力を求めた。 今年は一斉読書を増やしたが、本の押しつけになっているとの意見もあり、生徒自ら読む姿勢が失われてしまった部分がある。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自発的学習への取り組みのためには、学習の必要性を生徒自身が認識することに尽きる。自己教育力の向上、進路目標設定などクラスでの担任団や教科担任の手腕に依るところが大きいので、広義での生徒指導力の向上や授業のスキルアップなど研修に努める必要がある。 保護者への積極的な情報公開と家庭学習の習慣づけの協力要請 生徒が興味ある本を読めるように、朝読書での読み聞かせより、どんな本があるかを知り、本を自ら選ぶ機会を増やす。
		②基礎学力の定着と向上	<ul style="list-style-type: none"> 年々、義務教育の内容が未定着の生徒の割合が高くなってきている(1年生の割合 H29:50%→H30:59%)ので、授業においても学び直しに力を入れて取り組まざるをえない。 授業内容が下位層の理解不足を補うことに偏りがちで、上位層の生徒を伸ばすことができない。 学習指導要領に定める科目の狙いと生徒の実態に合わせた授業内容のギャップが大きい。また、生徒間の学力差が大きく、朝補習や添削指導で補う手立てを行っている。 図書館新聞発行や出工タイムでの一斉読書など読書への興味・関心を高めるための工夫はしているものの、生徒自身の興味・関心につながっているとはいえない。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別授業が可能となる人員配置の要望 チューターによるチュートリアルが効果的になるような制度化 マナトレ実施教科、実施方法の再検討 上位層の目標設定による自律学習習慣の構築と個別添削指導の強化 図書館係だけでは限界があるので、各教科に働きかけ、まずは授業等で図書館を利用してもらう機会を増やす。
	生徒指導	③基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> しっかりできる生徒とできない生徒がみられた。生徒会とも連携して継続して声掛けする必要がある。 クラスによって授業態度に差がみられる。 ネットモラル問題やバレなければ大丈夫という浅はかな考え方をする生徒がみられた。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 全職員の共通理解、共通実践が重要。教員間においても差を無くし全職員で指導するという意識を再構築する。 2月より職員による巡回指導を実施。それを受け、今後の対策も検討する。 保護者と両輪となって、学校や社会のルール遵守の大切さを指導する必要がある。
		④交通・問題行動の減少	<ul style="list-style-type: none"> 個人の利益を優先することが多く、ルールを守ることに、ばれなければいいという姿勢の生徒もおり、全体的な指導を継続して行う。 将来を見据えた個人の目標をはっきりとし、集団と個の関わり方を考えさせるまでにとどまっている。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 個別・全体とルールを守ることの大切さをしっかりと指導していく。指導についても全体で行い、一貫した指導をしていく。 個と集団の関わりをはっきりとすることが第一歩なので少しずつ指導・認識を広め、発展させていく。
		⑤保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 支援を要すると思われる生徒には教育相談係も保護者と面談し、学校が行う生徒支援の方法について説明できた。 スクールカウンセラーや外部機関とも連携・協力し、生徒本人への支援、保護者への支援に努めた。 	3	<ul style="list-style-type: none"> SCの来校日程やSNS講演会などのしっかりと周知し、多くの方に参加できるようにする。 保健所や市役所と連携を取って、必要な情報は共有し役割を分担していく。
		⑥不登校・いじめ問題への支援体制	<ul style="list-style-type: none"> 管理職や係・担任、行政機関と連携しての支援体制を取るようになっているが、今年度はクラスによっては生徒の状況の把握ができていなかった。 読書係と連携し、思いやりを育成できるような作品を朝の一斉読書で読み聞かせするようにしている。 仲間づくりのLHRを行い、生徒同士の関係づくりをするようにしている。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の支援が担任任せにならないように、適応委員会を定期的に開くなどして、しっかりと情報の共有をしていく。 いじめ対策委員会の位置付けを明確化し、学校全体で情報の共有と未然防止、発覚後のケアも含めすすめていく。
		⑦進路意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> 進路掲示板でのオープンキャンパスや公務員試験の案内、ならびに進路たより・業界地図・業界別就職先企業一覧等の配布など、年間を通して進路情報の発信を行うことができた。ただし、進路意識に対するクラス間格差が大きいので、クラス単位での進路情報発信の在り方を改善する必要がある。 3年担任とは、定期的な係会の実施により生徒情報を共有しながら指導を展開することができ、個別面談も充実させることができた。しかし、1・2年担任との連携が弱く、その結果個別面談も不十分となった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 個々の先生方の進路指導に関するスキルを向上させる必要がある。キャリアカウンセリングや適性検査の活用方法、およびクラス経営等に関する職員研修を充実させる。 1・2年担任の先生方との定例会を実施しながら情報共有を図る。
	進路指導	⑧職業観・勤労観の育成	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップに関する合同LHRやクラス内での個別面談を通して就業先を検討させたが、職業理解が浅く安易な考えでインターンシップ先を選ぶ生徒もいた。なお、昨年度と同様にインターンシップの事前学習として、厚生労働省主催の就職ガイダンスを実施することで就業意識を高めることができた。 学年毎に進路ガイダンスを実施できてよかった。(1年:職業理解,2年:就職スキル,3年:面接対策・進学個別相談) また、本校主催の地元企業魅力説明会に加え、県産業立地課主催の県内企業説明会を実施することができ、生徒の職業観や勤労観を高めることができた。 	3	<ul style="list-style-type: none"> クラス担任との連携を図りつつ、職業適性検査の結果を有効活用しながら個別面談を行う必要がある。 インターンシップ先の決定に関しては、職業適性検査の結果を有効活用しながら個別面談を充実してもらおう。
		⑨進路実現	<ul style="list-style-type: none"> 特に、進路を控えた3年生に関しては、適性検査やSPI等の模擬試験などを複数回実施し、その結果を活用しながら個別面談を行い、希望進路先を決定することができた。 近年の求人数の飛躍的な増加で、企業の新規開拓数は減少したが、生徒が希望する企業が数社開拓できた。 就職対策協議会への参加やハローワークへの定期的な訪問を通して、就職に関する情報交換を行うことができた。特に今年度は、就職希望者の中に難治性疾患傾向の生徒等もいたが、ハローワークや企業との情報交換を地道に行い、就職内定へと導くことができた。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 近年の企業の新卒採用意欲の高まりで企業の来校が増えているため、今後は卒業生の職場定着指導という観点での職場訪問を充実させていく。

領域	対象	評価項目	成果と課題	評価	改善策
教育活動	保健指導	⑩生徒の健康管理	<ul style="list-style-type: none"> 定期検診や各種講演は、担任や教科担の積極的な協力によりスムーズに実施できた。 虫歯面談を実施せず、全体への呼びかけにした結果、治療率が低下した。 色覚検査を見落とし防止のために2人でおこなった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 虫歯や各種健康診断結果についての個別指導の実施を機会をとらえて行う必要がある。 救急救命講習など講習の実施方法について検討や改善が必要である。
		⑪生徒の体力づくり	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストは全校生徒一斉実施2年目で、実施グループの変更等もありスムーズに実施できた。 体育祭は雨天プログラムで実施した。競技については雨天の中やれる範囲で実施できた。 持久走大会は授業での長距離走の練習が本番に生かされた。運営面も全職員で実施でき、担任団の応援も素晴らしかった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストでの生徒の取り組ませ方を工夫する。 体育祭では、徒競走を廃止して出エリレーを追加するなど90周年に向けて種目の変更を試みた。今回の反省を踏まえてさらに改善していきたい。
		⑫安心安全な環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回の清掃活動を実施し校内外の清掃に努めたがもう少し時間をかけて実施してもいいのではないかと思う。 2回の避難訓練や引き渡し訓練をスムーズに実施できた。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 清掃活動の範囲を西出水駅など範囲を広げて実施するべき。 第2回避難訓練と引き渡し訓練においては、内容を随時検討しながら計画する。 事務の示す部屋名と実際の部屋名との相違があったので、再度確認を取り検討していく。
	工業教育	⑬教科指導充実	<ul style="list-style-type: none"> LHRや企業説明会等を通し、専門教科や実習などに興味を持つ生徒も増えてきた。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 生徒意識の差があるので、工業高校の魅力をより伝えるため、授業の工夫や、行事の充実を考えていきたい。 学校全体で意識が高まるような具体的な計画が必要。
		⑭ものづくり教育	<ul style="list-style-type: none"> 専門性を生かした取り組みと座学や実習等で学ぶ事で生徒理解は図られ好成績で収めることができた。 大会や産業祭、学校行事を通して、展示や販売をするなかで楽しさや達成感を学び、ものづくりへの興味・関心を引き出した。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 取り組みを強化するほどに、経費(材料)が必要な為、予算確保が必要なのではないか。 ものづくりコンテストに向けた取り組みとこれからの体制作りが必要。
		⑮資格取得への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 資格の大切さを授業等でも話をし、取得意欲の喚起をしたが、資格の必要性をあまり感じていない生徒もいた。 昨年より三種危険物取扱者を1年生で全員受験させているが、各クラスでの取り組み状況も異なり、合格率がかなり低くなった。その後の資格取得の合格率にも影響した。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 資格を取得することで、どの様な利点があるかなどを具体的にわからせる必要がある。 合格率をあげるために補習内容・体制の見直しも再度考える必要がある。
		⑯各種行事参加	<ul style="list-style-type: none"> 翔工祭や産業祭等の参加を積極的に行い、販売や展示、体験コーナーを催すことで地域の方々へ本校の教育活動の一端をアピールができた。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 一部の職員・生徒に負担がかかっているようなので、全職員が取り組めるようにできれば良いが、勤務時間外であり、何らかの手立てが必要ではないか。
	全般	⑰社会に貢献する人材の育成と生徒募集	<ul style="list-style-type: none"> 個々の職員は教育活動全般を通して心に届く指導に努めていたが、組織としての力が生かされていない一面がある。 清掃も年間通してよく取り組んでいた。挨拶や服装については外部からの評価は良好であるが、まだまだ改善の余地がある。 出工タイムによる学び直しや資格取得の取組を通して、意欲の向上が図れた。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有や共通理解を図り、協力体制を推進し組織力の向上を図る。 生徒会活動や生徒指導等を通して、自主性や自己指導能力の育成に努める。 資格取得への組織的な取組と早期の対策を行う。
		⑱教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 教室の清掃・整理は全体的に良好であるが、クラスによって差がある。実習室の整理・整頓は適切に行われている。 安全点検を基準日だけでなく随時点検及び対応し、早急な対応ができています。 進路実現に向けた計画的な教科指導や特別活動、外部講師の活用などを行い、一次募集の就職試験での全員内定を3年連続で達成した。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 週番による点検結果のフィードバックを確実にに行い、教室の環境整備に努める。 学校における様々な事故事例を定期的に例示し、安全確保に対する感度を更にする。 進路指導と生徒指導、教科指導の更なる連携を図り、学力低下や今後の景気後退に対応する。
		⑲情報セキュリティポリシーの遵守	<ul style="list-style-type: none"> 文書管理は概ね適切に行われているが、一部に文書引継や廃棄が行われていないところが見られた。 校内LANを活用したデータの保管と活用を行いながら、情報セキュリティに関する情報提供を繰り返し行い、管理の徹底に努めた。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに文書管理の周知徹底と定期的な確認を行い、規定に基づく管理と保管及び廃棄を徹底する。 文書管理規定に基づく文書の保存・廃棄を徹底する。
		⑳服務規律の確保と資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の出工コンプライアンス及び自己点検表によるセルフチェック、県教委通知や新聞記事等を用いて意識の高揚に努めた。 不祥事根絶に向けた学校スローガンを職員室及び会議室に掲示し、意識の高揚を務めた。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 取組がマンネリ化しないよう、新たな方法や情報提供に努める必要がある。 働き方改革や学習指導要領の改訂に伴う教育活動の見直しを通して、使命感や規範意識を改めて考えていく。